

十字架 パート1 ヨハネ 19:14-15、23-24

1. その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答えた。「カイザルのほかには、私たちに王はありません。」(19:14-15)
 - a. 拒絶されるイエス。拒まれ、のけ者にされるといふことが精神的にどんなにつらいことか考えたことがあるだろうか。間違ったことは何もしていないどころか、人々を助け、いやし、食事を与え、回復させ、愛したお方が今や大衆から拒否されている。
 - b. イエスが拒まれている理由は、無実だと知っていながらイエスの存在に腹を立てていた少数の「邪悪な」人々による。ヨハネは福音書の中で、イエスの敵たちはただ見当違いのことをしていたというだけでなく、イエスがメシヤだと十分わかっていたうえで、彼とそれを認める人たちを殺すように心が傾いたのだということを確認に記している。
 - c. イエスとイエスが成し遂げてくださったことに本当の意味で感謝するには、旧約聖書の中でイエスが成就された預言的聖句をたどることも重要であろう。イザヤ書 53 章は全体がイエスについての記述である。
 - d. イザヤ書の中でイエスはさげすまれ、のけ者にされる(53:3)と書かれている。数日前に民衆から称賛され崇められたお方が、こんなに短い間にこれほど憎まれることになるかと誰が想像したのだろうか？
 - e. なぜイエスは死ななければならなかったのか。聖書はイエスが死に値したのではなく、それは私たちの罪や悪い行いのため、私たちに平安といやしを与えるためであったと言っている。イザヤは「彼は刺し通され、砕かれる」と預言した(53:5)が、文字通りイエスは手と足に釘刺され、その肺はつぶれた。比喩的にはイエスは神と私たちの間のベールを刺し通し、墮落を引き起こした蛇の頭を砕いた。
2. さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた」という聖書が成就するためであった。(19:23-24)
 - a. 刺し通されるということについて言えば、詩篇 22 篇ではイエスがどのように死なれるかがありありと預言されている。14-15 節では十字架につけられた人の状態が詳しく記されている。さらに 16 節でダビデは、イエスの十字架の約一千年前、メシヤの手足は引き裂かれると預言している。
 - b. ダビデの時代にはまだ十字架刑は知られていなかったことを考えるとこれは驚きである。何千年も経って多くの情報がある現代から見てもすごい預言なのだから、初めて語られたり書かれた時点ではそれを理解するのがどんなに難しかったか想像できるだろう。
 - c. 18 節にはイエスの着物がどのように分けられるかという細かい記述もあるが、それらの預言もその通りに成就した。
 - d. これらすべてのことから、イエスの十字架はただの偶然ではないことがわかる。神はサタンに負けたのではなかった。イエスはご自身について書かれていることすべてを成就するために来られたことを十分ご存知であった。
 - e. イエスは私たちのために刺し通され砕かれた。私たちが祝福を受けるためにのろいを受けられた。これらすべては神の子供となることによって実現する。もし神の子となりたければまずイエスをあなたの人生に迎え入れたいと神に願うことである。「親密に神を知る」旅はここから始まる。